

平成29年度 ステップアップスクール当仁研修会（報告）

本年度の研修会は平成29年10月5日（木）に実施されました。講師は、「トータルサポートセンターハロー」で、臨床心理士として活躍されている竹石綾子先生でした。演題として「発達に課題のある子どもの理解と支援」ということでご講演を頂きました。臨床心理士の視点からの子育てへのアドバイスや、今の子どもたちのとらえ方、発達障がいについてどう向き合うかなど、お話していただくと共に、ひざを交えて日頃の悩みを出し合いながら助言をいただき、お互いに学習していこうという趣旨でした。先生はその豊富な経験と分かりやすい解説で大変人気のある方です。発達に課題のある子ども達に直接関わられ具体的にどのように対応したらよいのか長年指導をされてきた経験からのお話でした。「トータルサポートセンターハロー」の前身である「フォルツァ」の頃から中心になって指導をされた方でそのブログなど熱心に発信されておられます。

参加者は20数名で、中学校の教頭先生や不登校対応教員、特別支援教育支援員、など先生方も参加されて18時30分から福岡市立当仁中学校会議室で講演会がありました。

主な内容は子どもの発達段階と親の関わり、軽度発達障がいの理解など基本的な話をしていただいた後、具体的に場面に応じた対処法などをアドバイスしていただきました。全体会を終了した後最後に個別面談の時間では個々の悩みに対して相談に応じてもらい21時過ぎに終了しました。

心の発達の段階(小学生)

- 低学年
 - ・十分に自己判断ができない
 - ・経験を積み重ねる時期
 - ・集団は充分ではなく先生の指示ルールによるものが大きい。コミュニケーションの基礎を作る時期
- 中学年
 - ・自分の意見が言えるようになる時期
 - ・自分の意見の根拠や因果関係は明確ではない
 - ・集団は子どもたちの意見で動き始める。しかし統制はできない。この時期にぶつかり合う関係がコミュニケーションのいい学習になる。
- 高学年
 - ・自分の意見が明確で根拠や因果関係も明確になり始める
 - ・みんなと同じでありたい。でもみんなと違う秀でた自分を感じたい
 - ・集団は子どもたちの意見で動きはじめ統制も取れ始める。大人の矛盾に気づき指摘することも多い
 - ・行動と感情が一致しにくくなる時期でもある

心の発達の段階(中学生)

- 1年生
 - ・小学校と中学校とのルールの違いに戸惑う
 - ・先生や親との距離をとるようになるがまだまだ自己解決できずに近づいたり離れたりする
 - ・集団はまだ未熟で流されやすい
- 2年生・3年生
 - ・友人関係の親密化に伴いトラブルが多発する時期
 - ・先生や親との関係は裏表が明確になり自己決断ができるようになるがアンビバレントな状態が続く
 - ・集団は非常に辛辣で攻撃性が高まる時期
 - ・支援があれば自己修正できる

思春期とは？

- ・体の成長が著しい時期
- ・子どもから大人へ変わる変化の時期
- ・自分で立ち上げるためにもがく時期
- ・人と同じようにいたくて同じではないやな時期
- ・大人(親)との分離をしたがる時期
- ・自分だけのコミュニティーをもちたがる時期
- ・人生で一番過敏でアグレッシブな時期


発達特性のある子どもとは？

- ・発達にばらつきのある子どもさん
- ・アンバランスなため周囲の成長とずれていることが多い
- ・視覚障害の子どもさんや聴覚障害の子どもさんが補助支援が必要なように支援が必要
- ・周囲の子どもも本人も成長のアンバランスに気づいていないと大きなトラブルが起こる

空間認知の問題・持ち物から分かること・ものが探せない・片付けができない・部活道具の管理・プリントの管理・引き出しの整理・習字道具の管理・リコーダーを使いやすくする・ランドセルの仕切り・上靴入れ・音読・ノートの使い方・表やグラフ・英語が読めない・消せない子の為の消しゴム・筆圧の強い子の為の道具・いろいろな道具・給食当番表・イメージを広げる教材・場所や方向の感覚が分かりにくい・・・など具体的に実物の写真を交えて対策が説明されました。

見る機能の問題

板書を目で追うことが難しい
 覚えてノートに書くことが難しい
 (学習障害 視覚障害 ADHD)
 音読するときに行がずれる
 (学習障害 ADHD)
 表やグラフを読み解く
 (学習障害 ADHD)
 運動会の立ち位置
 (学習障害)
 *1年生は弱視の発見をされていない子もいる



書くことの問題は 不登校につながりやすい

板書
 ノート
 宿題
 授業中のやる気
 学期末の態度(課題がこなせない問題)
 課題の提出期限から学校に行けなくなる
 宿題ができないと部活ができない
 学校の活動には書く行為は欠かせない

話を聞くことができない子

- 聞いてもすぐに忘れる
- 聞くことが苦手なうえに聞きながら何かをすることを求められるともっと苦しくなる
- 体育や集会など大きな集団の中では視覚指示も少なく指示が通らない
- 部活の集合時間や日程の変更など口頭でだけ伝えられる指示が記憶に残りにくい
- 授業時間に先生の話をほとんど聞かずに本を読んだりしていることがある

指示内容をどう伝えるか？

- 授業に関しては要点をまとめて箇条書きにして伝える
- 図式化することも重要
- 指示に関しては黒板の横に指示内容を書くスペースを作っておき書いて伝える
- 急ぐことなどは口頭でなくタイマーや具体的な時間で伝える
- 口頭で注意されることを繰り返すと自尊心が育ちにくいので見てわかるようにすることは重要

記憶力だけが いい考えるのが苦手な子

低学年までによく見かけるタイプ
 考えずに学習記憶のみ鍛えられる
 (自閉症スペクトラムの一部 学習障害)
 ・単元の初めには全く分かっていないように見えるが後半テストになるとある程度点数が取れている。しかし学期末のまとめテストなどでは全く分かっていないこともある
 ・できるようになったのかなあと思ったら全くできない部分もある
 ・発表や文章表現は苦手である

このようなお子さんは 学力不信を起こしやすい

- 考える習慣を身に付ける
- 記憶力のよさからできる子だという認識が両親にある場合が多い。声掛けは慎重に
- 自分の考えや意見を言えるように
- 初めての活動を嫌がる
- 不安が高く生活経験が乏しい場合が多い
- 考えて動く経験を意図的にさせる

質疑1：目覚ましをかけるが絶対起きない。どうしたらいいか。

質疑2：視覚過敏から聴覚過敏になってきた。何か対処法はないか。

質疑3：福祉の窓口や具体的な病院名など教えて欲しい。 など

